引 取 権現様 候処、 私支配 数千 権 現 堀 新 儀、 被 下 野惣左衛門差図を請、 承引不仕、 八石 右四拾五 捕差上、 坊左近手三属、 十津川郷之儀往古より無年貢 "而、 貢地 : 罷成候事 拾二年以前未年上方筋御検地之節、 鄉之者共御忠節之儀者、大坂 代々御年貢運上等御免之所!!而御座候処、 覚 ` 余 余 様江御味方仕、 助検地之節も、 往古者玉置庄司大膳亮殿致領知候由、 候様三与、 吉野郡川上口より責入候由、 人一而北山 以来御代々無年貢地 "被 所大和国吉野郡十津川郷五十九ヶ 大柴清右衛門支配之節、 且亦北山一揆おこし候節者、 人 右郷頭分之内野尻助左衛門・玉置笹坊、 仰 付 大坂 段 々 鉄炮三拾挺弓拾五張 " 而茶臼山 " 相詰罷在、 へ貢政人、 御陣場江相詰候弓鉄炮者共、 由緒書を以私方迄願出候 "付、 御帰陣迄摂州 今以上納仕候、 往古之由緒段々申達候 "付、 十津川 三拾六人生捕差上候、 郷頭 御陣之節大坂方より色々手立を以被招候得共、 拾弐年以前卯年より新規 "山手銀百枚宛上納 分四人之内野尻助左衛門 茶臼山三在陣仕、 仰付候儀者、 別而 然共十津川郷之儀者前段之子細を以、 又者巡見衆改之節も古来之由緒申立無年 右御忠節を以無年貢地 "被 小野惣左衛門指図二而十津川郷よ 村高千石之所、 新規"山手銀納候儀"候間、 其後百廿四年以前天正十五亥年小 御褒美とし 大坂御陣之時御忠 小野惣左衛門儀者大坂 無年貢地 "罷成候、 生捕数多仕差上候由、 遂吟味候処、 鄉中之鉄炮之者**召**連 従古来無年貢地 1 而 τ 和 • 御扶持 玉置笹坊 州 高 樋主水 十 津 仰付置候 節 方 ?米七拾 両 代 ЛÌ 御赦 十津川 表を り人 を生 郷之 人 Ξ 免 中 小 御

御代々 今 以被下 · 置候、 依之右四拾五人分者、 鑓之者与定、 右之外 "弓鉄 泡之

可仕候旨被

+

津

Ш

郷

山手銀

御赦免記録

者用意仕、御上洛之節者、二条北之御門番相勤、両度之御上洛之節、白革三
御城江御銀下候節、度々十津川郷之者共宰料被
米五百石宛被下置候由「御座候、且亦山城国・美濃国検地入候村方有之候時、
或者南都東大寺三倉御修覆之節、 鉄炮致持参、
前々右之通之御用共相勤申候儀紛無御座候、
高野山内騒動 " 而、 十津川
南都御代官竹村八郎兵衛江其趣相違、
郷民 "而者候得共、先規之武功残候而、
心掛懸罷在候、
権現様以来至只今、在所中申合せ壱人も他所江奉公ニ出シ不申候事
御代々御年貢運上等御免之地 "而
去卯年新規:山手銀百枚被仰付、古来之由緒立不申様:罷成歎ヶ
右山手銀御赦免被下候樣:与願出申候、
如古来山手銀御免除之儀奉願度旨!而、
如何可被(仰付候哉奉窺候、
宝永七年寅五月
御勘定所
村、前々より年貢免許之地 "候処、

御田山県にあたを、また・mellのいかた、ため、印刷に、 『「「「「「「「「「」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」
御代官差図次第急度相勤、
八月
覚
吉野郡十津川郷五拾九ヶ村高千石従古来無年貢之地 "候所、元禄十二卯年よ
り始而山手銀上納仕候、然共十津川郷之者共、大坂(御陳之節、
権現樣江御忠節仕、且又和刕北山一揆、其後高野山騷動之節も、御代官指図
相待罷有候由、依之右之趣を以山手銀御赦免奉願候所、御勘定奉行衆より御
老中江御窺之上、当寅年より山手銀御免除被(仰出候条難有可奉存候、則右
御証文壱通下置之条、無違失永所持可仕候、自今以後、猶以乍恐御忠節之儀
奉存、常々御法度之趣弥以堅可相守候、十津川郷之儀、無年貢之地 "候得共、
田畑耕作其外之家業共おろそかにも有之哉、段々近年困窮之躰 "候、向後奢
ヶ間敷儀曽以不仕、家居衣服飲食共分限よりかろく仕、倹約を用、耕作等之
儀随分可情出候、令困窮候得者、御忠節も難成候間、此旨急度相守可申候、

為後証添証文出シ置者也、 宝永七年寅八月

辻弥五左衛門印

五拾九ヶ村惣中江

吉野郡十津川郷